

令和5年度 上田市立丸子中学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
みずから学ぶ ともに創る たくましく生きる	○主体的に学び続ける生徒 ○仲間や先生と共働できる生徒 ○壁を乗り越えるたくましい生徒	
	今年度の重点目標	
	1	生徒が学びの深まりを実感する授業づくり
	2	あいさつの行き交う楽しい学校生活の実現
3	生徒会活動(清掃・合唱・地域貢献)・総合学習を軸とした地域との関わり	

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	ねらいの提示	学習問題や課題を明示し、ねらいがわかりやすいか
		対話的な活動の充実	授業の中に話し合いや協働の場面を取り入れているか
		授業の見とどけ	ねらいの達成が振り返りや生徒の自己評価でできているか
		家庭学習支援	宿題ST(スタートタイム)やノート指導による家庭学習の支援が行われているか
	指生 導徒	あいさつ活動の充実	生徒会・生徒指導などが連携してあいさつ活動の充実に取り組んでいるか
		個別支援の充実	チームによる支援や外部機関との連携で個々の多様性を認める指導支援が行われているか
	教人 育権	安心できる学校生活	人権教育を軸に、すべての教育活動に人権の視点を取り入れ生徒一人一人を大切にしているか
	活特 動別	生徒会活動の充実	生徒会活動の3本柱を意識した生徒主体の活動が計画的に行われているか
学校 運 営	地 域 携 と の	地域と関わる学校教育活動	地域素材や人材を活用した学習や、ボランティアの積極的な利用が行われているか
		適切な情報発信	学校だよりやHP等により、学校の取り組みや生徒の様子を伝えることができているか

総合評価					
コロナ5類移行に伴い、学校生活がコロナ前に戻りつつある。そのような中で生徒は制限が緩和された種々の行事に積極的かつ精力的に取り組み、充実感と達成感を感じることができた様子が伺えた。また、学習においてはグループワークなどを通して対話活動を活性化させることで、生徒の理解力と思考力を高めようと試みる場面を多く設定することができた。また、そのように試みる職員と学習に頑張っており取り組もうとする生徒が、協働的に活動することができた。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程研究協議会を通して、対話活動を充実させるスキルについて研修した。授業づくり実践ウィークを実施し、互いに授業を見合う活動を行った。		○			ペアワークやグループワークを授業内で効果的に位置づけ、生徒同士の考えが深まるようにする。互いの授業のよさや課題を語り合う場を設けたい。
生徒会(風紀応援委員会)の活動に「朝の挨拶当番」を導入して3年目。徐々に定着し、活発化しつつある。		○			挨拶が行き交う姿は、「1年生が慣れないが後半はできてくるのは例年の傾向。年度の開始から続けられるためには小学校との連携も必要か。
生徒会活動では左記3つを柱として取り組んだ。十分であったとは言えないものの、地域社会の一員として様々な活動に参加した。		○			文化祭では地域の福祉施設の方々をお呼びしたが、感染症等の関係で交流は断念した。今後も学校からのアプローチは続けたい。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学習問題・学習課題の提示が多くの授業で適切に行われている姿があった。		○			「授業の見とどけ」の部分で振り返りをしっかりと行うことで、学習問題・学習課題の質が上がると考える。
一問一答形式の問いが多く、子どもの思考を働かせることが課題である。			○		子どもの考えや思いを聞く姿勢を大切にまた、子ども同士の話し合い活動を意図的に仕組むよう日頃から心掛けていきたい。
教科や授業の内容によって、自己評価が十分に行われていない状況がある。			○		授業の振り返りを行う場面の大切さを研究通信等で発信し、教職員で共通認識を持ちたい。
学年の実態に応じて、ドリル学習などを計画実行した。少しずつではあるが、自主学習の習慣や取り組みが増えつつある。		○			生徒の実態把握と、現在の取り組みについてその成果・課題から次年度の取り組みについて考えたい。
朝の挨拶活動は委員だけでなく、その委員の友人らも誘われて参加するという姿があり、広がりが見られた。		○			主目的(遅刻をさせない)とは、異なるものの、無駄ではない効果があった。主目的も達成したい。
小中連携により小学校での実態をふまえながら困り感があると思われる生徒に適切に対応できた。	○				職員数や時間が不足している状況だが、ボランティア等の力も借りながら支援の充実を図りたい。
授業を通して、幅広く人権課題を学習した。一方で友人関係に人権の視点を取り入れることには個人差が見られた。			○		人権の学習(特に同和学習)は継続しつつ、授業外での関係づくりについて細かい配慮をしていく必要がある。
文化祭等はコロナ以前に戻りつつある。委員会の活動は生徒中心の運営とし、顧問との役割分担が進んでいる。	○				コロナ禍を経て精選が進んだものを踏襲したうえで、生徒自治の原則を一層進めるためICTの効果的活用を検討したい。
本年度よりコロナ禍で中断していた放課後学習支援ボランティアを再開することができた。人材確保が課題。		○			広く地域に呼びかけ、ボランティア人材を確保することで、一層生徒に資する支援ができるよう努めていきたい。
適切に情報発信したことで、保護者アンケートでは「学校の様子が伝わっている」との回答が約9割得られた。	○				今後も継続して適切な時期に適切な情報を発信していきたい。